

人権だより

(令和7年度2月号)

川之石高校人権委員会 担当 1年次2組

～ 1・2年次 第3回 人権・同和教育ホームルーム活動 ～

寒い中でも春の息吹が感じられる季節になってきました。2月13日(金)の6限目に、1・2年次生が今年度最後の人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。どのクラスも今回の人権・同和教育ホームルーム活動を通して1年間の学習を振り返り次年度につなげていこうと真剣に学習に取り組んでいる様子が見られました。今月号では、各クラスの様子や人権委員のみなさんの感想を紹介します。

1年次生テーマ

『自分の周りに目を向けようⅡ 一同和問題の解決を目指して』

〈1年次1組〉

○今回の人権・同和教育ホームルーム活動を通して、部落差別について勉強しました。現在も部落差別が残されており、辛い思いをしている人がいる現実を知り、私たちが正しく学び伝えていくことで部落差別の解消になるのではないかと考えました。これからも、人権問題について正しく知り、差別がなくなる未来にするために行動していきたいと思いました。

〈1年次2組〉

○今回は、SNS等のつぶやきを例に差別について学びました。人々の間違った思い込みによって、部落差別は広まってしまうことがわかりました。また、差別について「自分自身のことではないので気にしない」という考えもありました。しかし、現実には差別があるということを知って、それはいけないことだと伝えていかなければいけないと、この人権・同和教育ホームルーム活動で改めて思いました。差別はいけないと言えるような人になりたいです。



【1年次の人権・同和教育ホームルーム活動の様子】

2年次生テーマ

『解放への歩みⅢ 戦後の解放運動』

〈2年次1組〉



○私たちは、教科書無償化運動の取組から戦後の解放運動について学びました。当時、義務教育は無償とするという憲法があるのに、教科書は有償で教育が受けられない子どもが多かったことを知りました。今、義務教育の教科書が無償なのは、我が子に教育を受けさせたいと願う親の思いにより実現したことを知り、行動することの大切さを学びました。

〈2年次2組〉



○日本国憲法第14条「法の下での平等」から、戦後の平等な社会を目指した取組について学習しました。戦後、国民全体が困難な生活をする中で、被差別の立場にあった人々は、より厳しい状況にあったことを知りました。教科書が無償なことは、当たり前のことだと思っていましたが、当時の人々の粘り強い運動によって勝ち取られたことを知り、差別や困難に負けない姿勢を見習いたいと思いました。

★教科書無償化運動

1961年に高知市長浜地区で始まった運動。この地区は、農業と漁業を兼ねて生計を立てており、教科書代などは、働く親にとって大きな負担になっていた。地元の学習会で憲法第26条を学んだ母親たちは、学校の教師や民間団体、周辺地域の人たちにも働きかけ、「長浜地区小中学校教科書をタダにする会」を結成。高知市議会と粘り強く交渉を行い、教科書無償を求める。

今年度の人権・同和教育ホームルーム活動は今回が最後でした。みなさんは人権問題についてどんなことを理解できましたか？高校3年間の人権・同和教育ホームルーム活動で学習する内容は、現代社会において起きている人権問題の一部です。今後、社会に出た時、いつ、どこで人権問題に直面するか分かりません。その時に役立つのは、正しい知識、行動する姿勢、仲間をもつこと、です。

人権問題を「他人事」ではなく、「自分事」として捉え、差別を解消するためにはどうしたらよいか考え、行動できる人になることをめざし、来年も共に学習しましょう。